

# 『春城日誌』余滴

付・市島栄治氏寄贈資料リスト

## 春城日誌研究会

早稲田大学図書館の初代館長であつた市島春城先生の残された膨大な自筆記録のうち、『春城日誌』の翻刻・紹介をはじめてからはや八年になる。日誌そのものは、明治一八年から昭和一四年まで綴られており、その全てを翻刻することは容易ではない。我々の当面の目的とするところは、春城先生の図書館長在任期間（明治三五〜大正六年）のものである。

本会は、昭和五九年六月の第一回会合より「継続は力なり」をモットーに読解を続け、その成果を本誌に発表してきた。現在、明治三五年から同四〇年六月までの日誌を連載し、本号には四〇年一二月分までを発表する予定で原稿を作成し終えていたのだが、諸般の事情（特に編集上の）により次回にまわすこととした。そのかわりに今回は、春城先生関係の資料をめぐるいくつかのエピソードと新たに市島栄治氏により御寄贈いただいた資料のリストを紹介したい。

『春城日誌』を含む「市島春城資料」（早稲田大学図書館架蔵・請求記号イ4・1919）が、図書館のみならず早稲田大学の歴史を物語る資料として第一級のものであることはいうまでもない。また春城先生の関係した立憲改進黨

(学祖大隈重信の創立)の歴史、大日本文明協会の事業、日清印刷(現大日本印刷)、日清生命(現東京生命保険)の設立などの資料としても同様に重要なものである。

さてこの資料が、学苑の所有に帰すまでに若干のいきさつがあつたことを、我々は耳にしていた。それは、これが「春城文庫」として、春城先生の出身地である新潟県立図書館の所蔵するところであつたが、早稲田大学関係者の強い要請により移されたものであるということだった。このことは、事実であり、その限りにおいては何ら問題はないのだが、学苑の働きかけが、新潟県立図書館の関係者にとつては、かなり強硬なものと映つたようである。とりわけこの移管の話があつた当時の館長であつた渡辺正亥氏(一九〇五—一九八八、のち大東文化大学教授は、自分が県立図書館を離れるのを待つていたかのように早稲田大学に移されたことに御不満であつたと伺つていた。

この辺のいきさつについては、坂口献吉氏(一八九五—一九六六、校友、新潟日報社長から渡辺氏あての書簡「坂口献吉追悼録」昭和四一所収)に、次のように記されている。昭和三八年、当時の塚田十一郎新潟県知事と大浜信泉総長との会見の結果、(一)新潟県にとつて大切な文化財ではあるが、研究者の最も多い場所に置くのが妥当、(二)但し県から移すものについては全て早大側がコピーを作り寄贈する、(三)早大から謝金として百万円を出す、これは県より遺族へ贈ること、の三条件で裁定がなされ学苑に帰すこととなつた。

我々は研究会を発足させた次の年の昭和六〇年の秋に、図書館の中沢保調査役の紹介をうけ、春城先生のご遺族の市島栄治氏を目黒区鷹番のお住いにおたずねした。栄治氏は、春城先生の末子光子さんのご養子であり、日誌を翻刻するにあたって、ご助言をいただくためであつた。

その後、新中央図書館設計画の中に、初代館長の春城先生を記念して、「市島記念会議室」が設けられるということをお伝えすると、栄治氏は、春城先生遺愛の時計や万年筆などの貴重な品々を学苑にご寄贈される旨申し出て下さ

った（後掲リスト参照）。これらの品々は、開館記念式典の日と同記念室に陳列されたが、そのひとつが、前号に写真で紹介した「深蔵如虚」の扁額である。

そして、今ここにもうひとつの扁額がある。それは「到興飛筆」と揮毫されたもので、実は先程の渡辺正亥氏のご夫人ハナ子さんより贈られたものである。

平成三年の二月、人を介して渡辺ハナ子さんより市島春城先生の扁額を寄贈したいという申し入れがあった。我々は、早速千葉ニュータウンにおられる夫人を訪れた。既に九〇歳をこえておられたが実に矍鑠とした御婦人で、かつてこちらが圧倒される様だった。春城先生の資料についてのいきさつは、もちろん夫人の心にも深い影をおとしていたようであった。我々は、夫人が秘蔵されている正亥氏の記録を拝見しながら、その当時氏がいかに悩み、そして憤ったかを伺ったのであった。その折に、それまでに翻刻した『春城日誌』と春城先生を紹介した『早稲田フォーラム』第57・58号（特集・学祖を援けた人々）を持参した。夫人はそれをご覧になり、「立派に生かされていますね」と言われた。そして生前春城先生が渡辺氏に贈った「到興飛筆」（この語がまたいかにも春城先生らしいと感心させられる）の扁額を、「早稲田にあった方がよいでしょう、それでお渡しするのです」と仰り寄贈して下さった。そう決意されたのも、当時の決定が間違っていないかということに対する安堵があつてのことだとおもっている。

新館オープン後、夫人にかわってご息子が図書館を訪れ、市島記念室でその扁額を背景に写真を撮っていかれた。数奇な来歴の結果、我々の手元にあるこの資料を、その一端ではあるが、こうして世に送ることが、これらの一連の関係者への報恩となるものだと思っている。

# 市島栄治氏寄贈資料リスト

(二九九〇・二)

1	市島家々系譜 家廟之紙碑	16	大津絵鬼念仏	1軸
2	市島成一著 秋艸道人題 (昭和一七)	17	納礼	43枚
3	早大図書館地下室ニ預けたる箱入目次(昭和一八)	18	曼荼羅 武州大里郡上吉見識語	1巻
4	早稲田大学図書館預証 市島宛	19	延命十句観音經	1冊
5	網屋請取証 市島宛	20	観世音普門品 梶川乾堂校訂	1冊
	故市島謙吉顕彰状	21	普門品 折本(帙入)	1冊
	新潟県知事君健男(昭和五一・一一)	22	普門品 (正保四・六) 折本	1冊
6	市島春城色紙 三起三眠 春城八十二隻	23	冠註現図観音經 清水谷恭順冠註記	1冊
7	市島春城色紙 水自竹辺流出	24	(昭和四・四) 浅草寺観音会刊 折本	1冊
8	市島春城色紙 泉声咽危 春城八十二隻	25	白衣観音經 (明治三五・一) 折本	1冊
9	市島春城色紙 五言絶句 隔岸呼船子	26	仏説無量寿經 曹魏天竺三蔵康鉦 折本	1冊
10	市島春城書扁額 深蔵如虚	27	正信念仏偈	1冊
11	市島春城色紙 凡人装成 春城漫題	28	正信念仏偈御和讃 (安政再刻) 慶元堂刊	1冊
12	秋月種樹書 梅経寒苦		掌珍 折本(帙入)	1冊
13	節齋生書 短歌 華やきし君が齡ハ			1冊

29 LA DIVINA COMMEDIA DANTE

豆本 (一八八二)

1冊

44 のし袋

4枚

30 大隈侯来越記念写真 於市島徳二郎邸 (大正二)

1葉

31 丸印 市島 ○

1顆

32 方印 光子

1顆

33 方印 謙

1顆

34 方印 落邨

1顆

35 方印 信城

1顆

36 金唐革文箱 (五軒町旧宅襖把手入)

1箱

37 書見台

1脚

38 竹製行李文箱

1箱

39 帙型文箱

1箱

40 硯

1面

41 金色パーカー万年筆

1本

42 パーカー万年筆

1本

43 絵入封筒

126枚

45 ベッ甲櫛 (桐箱入)

1本

46 ベッ甲櫛 (布製袋付)

1本

47 珊瑚付簪 (箱入)

2本

48 懷中時計

1箇

49 懷中時計 EMPIRE 製 止メ鎖付

1箇

50 ゴーリングゲン剃刀 (ケース入)

1本

51 ゴーリングゲン剃刀 (ケース入)

1本

52 懷紙入 布製

1箇

53 ガマ口 印2顆 (31、32)入

1箇

54 ワニ革製ガマ口 (十円紙幣、五錢、十錢硬貨、サイコロ入)

1箇

55 皮製印入 印1顆 (33)入

1箇

56 皮製小物入

1袋

57 名刺入 布製

1折

58 煙草入 銀製

1箱

59 煙草入 布製

1袋

60 湯呑 古銭柄

1箇

61 茶碗 砂瓶夜煎銘 (箱入)

1箇

62	陶製合子(大・中)	2箇	77	膝掛	1枚
63	瓦当孜茶托 乾漆製		78	敷物	1枚
64	白河斎梧竹造(大正六年) 毛利宮彦所蔵(箱入)	5枚	79	敷物	1枚
	輪島塗皆朱盃台 岱海堂蔵器		80	葛纈染テーブル・クロス	1枚
	桐箱・縮緬風呂敷入	1脚	81	縮緬袷紗 秋草模様	1枚
65	岱海先生遺箸箱	1箱	82	縮緬風呂敷	1枚
66	皮製クラッチ・バック	1袋			
67	皮製トランク	1箇			
68	鹿皮製袋	1箇			
69	木箱	1箱			
70	一閑張衣装箱	1箱			
71	男物黒単羽織	1枚			
72	男物和服コート 半裏	1枚			
73	女物袋帯 龍村製				
74	野田金欄文緞子(雪夫人所用)	1筋			
75	女物半幅帯 羽織下用・前のみ	1筋			
76	印半纏	1枚			
	油単 家紋入	1枚			